

# 会 議 録

## 1 会議名

平成26年度第2回上越市スポーツ推進審議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 「上越市総合教育プラン」第3期実施計画検証（公開）
- (2) 平成26年度スポーツ推進事業実施状況（公開）
- (3) 上越市スポーツ推進策の課題（公開）
- (4) その他（公開）

## 3 開催日時

平成26年10月24日（金）午前10時00分から

## 4 開催場所

上越市教育プラザ2階 202会議室

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：松縄武彦、金子英子、小日向俊郎、陸恵利子、松井和代
- ・事務局：國元体育課長、星野副課長、近藤係長、杉原体育専門指導員

## 8 発言の内容

### (ア) 委員長あいさつ

(松縄委員長)

平成26年度から28年度にかけて上越市の総合教育プラン第3期実施計画が実行推進中である。スポーツ施策については、生涯スポーツの充実、競技スポーツの発展、スポーツ環境の整備についてそれぞれ目標、成果指標、推進項目を示し推進しているところである。市のスポーツ推進について市民が大きな関心をもっている。その負託にこたえなければならない。ある区でスポーツ懇談会を開催した際、気になる発言があった。その区はスポーツの受け皿組織が全くない地区であり、地区のスポーツに関してその現状と課題について懇談をした。その席でスポーツ推進委員にだれがなっているか分からないという声にびっくりした。これは一部の現象かもしれないが、スポーツの現状が見えてこない例である。また、ある区では振興会任せの状態もある。日常のスポーツ活動の手立てについて考え、スポーツ環境整備が重要であることを認識しなければならない。2020年のオリンピック、パラリンピック開催に向けて各地でスポーツ活動が盛んになっていく。上越市のスポーツ活動もさらに取組を進めていかなければならない。その意味で、本日はスポーツ推進策の検証、実施状況、課題について審議いただき今後のスポーツ施策の方向を見出して

いきたい。

(イ) 審議事項

「上越市総合教育プラン」第3期実施計画検証

近藤係長が資料1について説明。

(松縄委員長)

次の3点について進捗状況を問う。①総合型地域スポーツクラブの組織化 ②小中高一貫指導システムの推進 ③施設利用の見直し

(國元課長)

- ① について : 春日地区の組織化に取り組んでいる。昨年は設立準備委員の選定を進めたが、設立までには至らなかった。今年度は100 kmマラソンで協力いただいた方々や組織とのかかわりを活かし、27年度設立に向けて取り組んでいく予定である。
- ② について : 4競技団体で取組を進めている。来年度の予算組の段階で、もう3競技団体(野球、山岳、テニス)の拡充を予定している。進捗状況については、今後開催される学校体育スポーツ連絡会において報告があるので確認していきたい。
- ③ について : 施設使用料金の見直しを進めている。学校開放の使用料の検討、減免措置についても併せて組み直し作業を行っており、今年度末には結論を出していく。

(松縄委員長)

地域ではスポーツ人口の受け皿づくりをしようという意向はある。しかし、どうしたらよいのかという方法論が分からないのが現状。何とかしたいという地域住民をサポートしてほしい。また、トップアスリートの育成だけでなく、オリンピック開催を起爆剤として、スポーツ推進を図ろうとする機運をとらえてほしい。施設使用料についてはその施設に見合った料金設定が適切である。また、ジュニアの減免については賛否両論ある。いろいろな問題が内在しているので熟考願いたい。

(陸委員)

スポーツ推進委員はどのようなシステムで上がってきているのかよく分からない。スポーツ推進委員からはお願いしたことしかやってもらえない。もっといろいろなことを相談したい。そのためにも身近なスポーツ推進委員の方とコンタクトを取りたいが、どのスポーツ推進委員が地域にいるのか私自身が把握していない。

(金子委員)

スポーツ推進委員は、各区に3名ずつ、中学校区に3名ずつ、計66名いる。スポーツ推進委員の活用については、依頼事項が特定しているとそれが中心になる。幅広く多岐にわたってかかわってほしい場合は依頼のしかたを工夫するか、体育課と相談してほしい。スポーツ推進委員はこんなことをしているということをポスタ

一を張るなどアピールに努めているがなかなか周知されていない。もっとスポーツ推進委員を利用してほしいと願っている。

(陸委員)

体育課にいちいち問い合わせをしなければならないのか。スポーツ推進委員に気軽に相談したりかかわってもらったりするために、地域の中で直接お願いできるシステムにできないのか。

(國元課長)

スポーツ推進委員は非常勤特別職員という立場である。身近なスポーツ推進委員とはコンタクトを取ってもらって構わないが、派遣するというシステムなので、とっかかりは体育課へ相談願いたい。

(松縄委員長)

スポーツ推進委員の役割が変わったということが周知されていないように思う。スポーツ推進委員自身がどう出ていったらよいか分からなかったり、地域住民がスポーツ推進委員の仕事を理解していなかったりするために、スポーツ推進委員がうまく活用されていないのではないか。仕組みが把握されていないと動かせない。先般、村上で開催した県スポーツ推進委員大会ではまとまった方向が出されたと認識している。その1点は、行政及び住民と最も接触できるのはスポーツ推進委員であるということであるということ。もう1点は、各団体の目指していることはほとんど共通しているのでお互いに協力して進もうではないかということである。そのところをぜひ機能していただきたい。地域にとってスポーツ推進委員は非常に大事である。今までと異なり、スポーツ推進委員は技術指導だけでなく今は地域活動の企画、立案、調整の任務が大きい。その役割が生かされるよう行政で力を入れてほしい。そのためにもスポーツ推進委員の増員は必要である。

(松井委員)

スポーツ推進委員の役割について十分周知されていないため、地域活動の会議にスポーツ推進委員を加える状況になっていない。スポーツ推進委員の力を発揮するためにもその任務を発信すべきである。その意味で発信力が弱いと感ずる。体育課としてもっと発信してほしい。検証という視点で考えると、本日の資料に予算の執行状況があってもよいのではないか。今年度の予算の執行状況を見たい。

(松縄委員長)

競技団体の課題として人口減少とスポーツの多様化があげられる。その点を野球競技の視点からどう見ているか。

(小日向委員)

年々厳しくなってきている。ジュニア育成の面でスポーツ少年団と競技団体との兼ね合いが懸案である。大会が重なった場合の出場や選手登録をどうするか等について交通整理していくことが重要である。一方、スポーツをしない小中学生が多くいることが大きな問題である。

(松縄委員長)

一例として、サッカーは総合型スポーツクラブに所属するがスポーツ少年団には加入しないという姿がある。同じジュニアでも、こちらの組織に加入して他の組織に加入しない。両方加入するという様々な所属状況が生じている。登録料のこともあり所属組織の重なりを避ける傾向がある。また、加盟に際し資格の問題、手続きの問題もクローズアップされている。

(小日向委員)

スポーツ組織に加入する子どもが減ってきている状況には親の姿の影響がある。親が保護者会等で子どもの活動をサポートしていたが、サポートできないので子どもを入れられないという状況がある。結果的にスポーツをしない小中学生が増えてきている。

(松縄委員長)

文部科学省の調査では、およそ70%近くの人が日常的にスポーツをしていないという現実がある。30%くらいの方はスポーツをしているのでよしとし、約70%の人たちにどう手だてを講ずるかが問題である。

(陸委員)

両親が共働きだと子どもを活動場所に連れて行けない。動く手段があれば子どもにスポーツ活動をさせる親が増えると思う。ジュニアのスポーツ活動を盛んにするためにはその点を改善すべきである。

(松縄委員長)

市内の小中学生の体力と日常のスポーツ活動との関係をどうとらえているか。

(國元課長)

毎年実施している小中学生の体力調査については学校教育課が所管であり、今年データのデータはまだ報告を受けていない。

(松縄委員長)

体格が良いのにスポーツ成績は不振という現状がある。体格と運動（スポーツの実施）との関係が分析されると手立てが見えてくると思っている。

(金子委員)

子どもの体力づくり巡回教室から、親がアウトドア派（運動派）の子どもが教室に参加している傾向がある。

(松縄委員長)

親の意識改革が必要。親が体を動かすと家庭の中で話題になる。子どもにも影響を及ぼす。

(陸委員)

その環境としては公園が最も良い。親子で体を動かす身近な環境は公園である。子どもの姿を親が見守る必要があるが、そこにシニアの協力を得られると良い。

(ウ) 平成26年度スポーツ推進事業実施状況

近藤係長が資料2について説明。

(松井委員)

スポーツ推進委員の「出前講座」と「派遣のみ」の違いについて教えてほしい。

(國元課長委員)

出前講座とは体育課から派遣費を出すもので、派遣のみとは依頼した相手側の方から派遣費が出るものです。

(松縄委員長)

体力測定会への参加数を、この時期の進捗状況としてはどう評価しているのか。

(國元課長委員)

年間に300人から400人ほどが参加しており例年のほぼ半数である。今月26日に体力測定会を予定しているので、多くの参加を期待している。市全体で参加人数の目標を定めているのではなく、機会を提供し、自身の体力に関心をもってもらっている。

(小日向委員)

毎年同じ会場で同じ人が参加しているのか。そうであればその人の体力の年次推移を検証してもよいのではないか。

(松縄委員長)

むしろ健康診断等の機会の時に簡単な体力測定を実施したほうが、大勢の市民に健康と体力について関心をもってもらえるのではないか。

(松井委員)

体力測定はここだけでなく健康づくり推進課やほかのところでもやっている。三和区では、三和スポーツクラブ実施の体力測定の機会を利用し15年も測定している人がいて、そのデータを新潟大学が分析し、その結果を個人へ返している。

(松縄委員長)

市でやるとなると予算の関係で限界がある。もっといろいろな組織に働きかけてそこでやってもらうという方法もある。そういう取組もあってしかり。

(松縄委員長)

上越の野球はレベルが上がったのではないかとわれ、注目されている。

(小日向委員)

今年は生徒たちが頑張ってくれてありがたい。直江津中学校の全国大会3位、関根学園の新潟大会決勝戦進出、上越出身の飯塚、鎌倉バッテリーに代表される野球の機運が高まっている。先輩に続けとばかり、子どもたちの目標ができて楽しみにしている。上越初のプロ選手誕生かという情報もあり、追い風をもらってますます野球を通じてスポーツが盛んになることを期待している。

(松縄委員長)

野球の活躍の陰にはいろいろな事があると考えられる。野球は2年前に、個別に動いていた多くの団体が統合し野球協会に一元化する組織改革を行った。組織を改

編する過程で関係者、野球仲間の力が結集されたと私はみている。その組織的な指導体制は貴重なもので、その好影響が出てきたのだと感心している。

(小日向委員)

野球協会として小中高、すべての各団体の代表が対応してきた。気になることとして先ほど話をした少子化で、学童の学年が進むに従って登録数が減少している。高校野球も危機感を抱いている。小学校の低学年から始めた野球を中学校、高校と繋げていきたい。そのためにはどこに課題があるか今後協議していかなければならない。ただ単に競技力を高めるだけでなく、競技人口をも増やしていきたい。

(松縄委員長)

そのことは野球だけでなく他の種目団体にも共通して言える。旧態依然とした取組でなく、小集団、指導体制、社会的な状況等をどうクリアしていくか工夫し取り組んでいく必要がある。以前 1000 人いたジュニアが今 300 人、400 人の大会になっている。なぜかということ进行分析しないと改善されずそのままで終わってしまう。

(陸委員)

先ほど話題になった、7割のスポーツ活動をしない人たちをいかにスポーツする人にするかということが課題である。

(松縄委員長)

このことは生涯スポーツの課題でもある。スポーツをやっていない人をどのようにスポーツ行動に向けさせるかということである。全く関心がない、やろうとする気も示さない、やらない そういう人たちをどういうふうにするかである。スポーツ推進審議会で「健康寿命」を延ばそうという発言がある。スポーツ活動をやっている人をどう伸ばすかではなく、やっていない人をどうするかという趣旨である。やっていない人へ施策の手を伸ばさなければならない。

(松縄委員長)

今回の資料の中に障がい者スポーツ振興への取り組みを載せてもらった。ご存知だと思うが、パラリンピックの所管は厚生労働省から文部科学省へ移管したと聞いている。これらのことに伴って市では、障がい者スポーツ推進の所管はどのようになるか。

(國元課長)

国は文書（通知）ひとつで変更を伝えたが、県の体制がどうなっていくのか見えない。市は福祉課が担っている。

(松縄委員長)

今後どこが所管していくのか注目していきたい。

(國元課長)

学校施設の開放にかかわって、同じ体育館でも小学校の規模によりスポーツ活動に制限がかかってしまう所がある。また、利用申請団体がグラウンドの雨天時の保険として体育館を確保しておくという状況がある。施設の利用料金の適正化および

予約システムについて、施設の有効利用に向けて改善していきたい。

(松縄委員長)

受益者負担という考えが基本。その施設に見合った使用料はだれもが納得するものである。

(松井委員)

場所を確保しない限り活動ができない。スポーツ活動をするためには、やはり場所が必要。そのためにも誰もが納得できる施設利用とそれに伴う料金体系の見直しを行い適切なものに改訂することは大切。野球やサッカーの団体が確保していた体育館が好天のため空いていて他の団体が結局利用できない状況や、ゲートボール場が空いている時間帯にテニスの練習に活用するなど、施設の有効活用でスポーツ活動に繋げてほしい。

(エ) 上越市スポーツ推進策の課題

近藤係長が資料3について説明。

(松縄委員長)

武道館誘致について進捗状況を知りたい。

(國元課長)

県の動きとしては今年度基本計画の策定ということになっている。今年は規格が示されることになっているが、9月末に県に確認したところ、まだ出ていないとの返答であった。市としては検討会へ、平成25年度段階で、大道場はコート6面程度、客席は1,000席程度の規模を県に要望している。

(松縄委員長)

野球場の工事はどの程度進んでいるのか。

(國元課長)

外工事は11月半ばにはめどがつく予定である。スコアボードの足場が外れた。スコアボードの使用法講習会を経て来春4月から供用開始となる。高野連には伝えてあり、春、秋の北信越大会及び夏の甲子園大会予選会が来季から開催ローテーションの中に入るので、いずれかの大会が来ることになる。

(松縄委員長)

スポーツツーリズムやスポーツの総合化についての捉えを視野に入れていることは大切なことである。スポーツを通じた交流機会の創造やスポーツ活動の推進についても、総合計画審議会において審議されている。

(陸委員)

施設の維持管理という視点で考えると、子どもたちが遊んでいる公園で遊具の撤去が進んでいる。子どもの屋外運動に遊具は大きな役割を果たしている。遊具設置には予算組が必要であるが、遊具という考え方で無く健康増進具という見方で予算執行に工夫できないか。建物を建設するには何億というお金がかかるが、遊具であ

れば少ない経費で子どもの運動の機会を増やすことができるので、遊具設置にもっと留意してもよいのではないか。

(松井委員)

安全面を考えると、老朽化が進む遊具の設置については賛成できない。時代が変わり子どもたちを取り巻く状況も昔と異なっている。設置基準や耐用年数、その遊具のもっている危険度も含め、安易に遊具の設置を考えることはリスクを背負うことになる。

(松縄委員長)

子どもの外遊びが少なくなった。以前は学校が子どもの遊ぶ場であった。動くことができる面、砂場、遊具があり、子どもたちが群れていたものだが、今は学校のグラウンドに子どもの姿を見ることができない。学校管理上の問題だけではないことは承知しているが、外で子どもが活動している姿が見られなくなったことは寂しいだけでなく将来の不安材料である。これに関しては、生涯スポーツについても深くかかわるため所管を超えて取り組む必要がある。そういう意味では町内会館など地域にある面（活動できる場）をもっと活用することを検討していくことが大切であろう。せっかく集まったその会場で、会合だけでなく簡単な身体活動をするこゝで有意義な会にしたり運動の機会を確保したりできる。

(オ) その他

特になし

(國元課長)

次回3回目は、審議内容について多岐にわたりご意見をいただきたい。そのために、多くの委員から出席していただけるよう日程調整を図る。

## 9 問合せ先

教育委員会体育課スポーツ振興係

TEL : 025-545-9246 (内線 616-1330)

E-mail : taiikuka@city.joetsu.lg.jp

## 10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。